

講義名	地域社会学		
科目区分	学部専門基礎		
担当教員	脇 穂積		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

好む好まざるに関わらず、私たちは地域社会の中に生きています。講義では、地域社会学を理解する前に、社会学の方法論について詳しく論じます。社会学の方法論を理解したうえで、地域社会学がどのように問題を整理、検討し、理論化させてきたかに議論を展開していく。

地域社会に関する主要な概念である、地域、地域社会、コミュニティ、町内会・自治会など基本的な用語の理解を進めていきます。その後、地域社会の様々な変化～都市化、過疎化、グローバル化、自治のあり方等～を解説する。そのうえで、地域社会を巡る様々な論点～少子化・子育て、高齢化・介護、地域経済～について現況を解説し、その課題について考えていく。最後に、課題への理解を踏まえ、地域社会に関わる手法を身につけていきたい。

到達目標

本講義の到達目標は、
 ①「社会」という存在が所与のものではないということを理解すること、
 ②社会学という学問が、(地域)社会をどのように分析するか理解すること、
 ③人間の定住生活の場である地域社会の歴史の変容を知ること、
 ④今日の地域社会における諸問題と新たな地域社会づくりを知ること、
 を通じて「地域社会」を多面的に理解する能力を身につけることにある。

提出課題

指定論文又は文献を事前に読み込み、講義日程に合わせてレポートを提出してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

各課題に対して提示された疑問点や質問を整理し、講義にて詳細説明いたします。また課題に関して、個別にもコメントし、各自に回答します。

評価の基準

講義中の質問 10%
 講義課題の提出 90%

履修にあたっての注意・助言他

講義は、講義配信（双方向型）と課題提出を組み合わせて実施します。講義配信（双方向型）の際には、積極的にコメント・感想・質問してください。

WEB環境（通信・器材スペック）や受講環境（個室の有無や周辺環境等）が各自異なることを考慮し、本講義においては、極力講義配信回数を少なくし、課題提出にて講義を進めていきたいと考えております。ただし、課題にて提出された疑問点や、内容理解を深めるために講義配信は双方向型にて実施予定にしております。なるべく時間内に参加し、追加の質問等を積極的にいただければ幸いです。

WEB・受講環境が整っていない方は、講義配信を動画で記録しオンデマンドにて確認できる状態にしておきますので、動画を見たらうえて、疑問点や質問を送付してください。

教科書	. 創造の方法学、高根正昭	講談社	700	4-06-145553-2
-----	---------------	-----	-----	---------------

プリント資料及び参考文献

『地域社会学入門』、山本勉編著、学文社、2019
 『都市社会学入門』、園田雅久・和田清美編著、文化書房博文社、2004

授業計画

1. イントロダクション
2. レジューメ作成の方法論～ツールミン3点ロジック
3. 地域社会学とは何か
4. 方法論への道
5. 問題をどう立てるか
6. 社会学の方法論に関する講義①
7. 理論と経験をつなぐ
8. 科学的説明とは何か
9. 社会学の方法論に関する講義②
10. 数量的研究の方法
11. 全体像をどうつかむか
12. 社会学の方法論に関する講義③
13. 都市研究、過疎農山村研究
14. 都市社会学の歴史、日本都市社会学研究史
15. 最終講義

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。具体的には、授業前に各回の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（2時間）、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義内での意見応答を、学内導入済みのRESPONあるいはmicrosoft teamを用いて可視化し、双方向授業実施も行う。

実務経験の有無及び活用

備考